AMDA ジャーナル ー国際協力ー　2012 年 冬号　2012 年 1 月 25 日発行　□発行定日　年 4 回（1・4・7・10 月 各 25 日）□ 1995 年 11 月 27 日　第三種郵便物認可

AMDA 多様性の共存 ジャーナル

2012 年 1 月 25 日　VOL.35　第 260 号　定価 550 円
発行／ AMDA　〒 700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
2012 年 冬 号

冬

緊急救援　救える命があればどこへでも

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
http://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
http://amda-imic.com/

菅波　茂（AMDA グループ代表）が第 70 回（平成 24 年）山陽新聞賞（国際功労）を受賞

1 月 10 日、ホテルグランヴィア岡山にて、盛大に贈呈式が行われました。多年にわたる国際貢献活動への功績が認められました。

写真最前列右端・菅波代表

2012 年を迎えて

AMDA グループ代表　菅 波　茂

2011 年には東日本大震災を始めとしてニュージーランド地震、ブラジル洪水、フィリピンの首都マニラの洪水、タイの首都バンコクの洪水に加えてトルコの地震がありました。AMDA としてそれぞれの災害被災者の方々への救援医療活動を実施しました。これもひとえに AMDA の活動に御理解と御支援をいただいている皆様方のお陰と心から感謝を申し上げます。

東日本大震災被災者復興支援活動を 3 年間は続ける体制です。トルコの地震被災者復興支援活動は日本とトルコの相互扶助の歴史を促進するためにも積極的に考えています。タイとフィリピンの洪水被災者支援活動として現地の団体との更なる連携を強化予定です。

困った時はお互いさまの「相互扶助」は国際的に共有できるコンセプトであると確信しています。AMDA は「平和とは今日の家族の生活と明日の家族の希望を実現できる状況である。阻害する要因として紛争、災害そして貧困がある」と定義しています。1984 年に設立して以来、災害と貧困に対して世界各国で活動を展開してきました。災害に対しては「AMDA 多国籍医師団」のシステムを完成させました。貧困に対しては AMDA 社会開発機構が鋭意努力してくれています。

2012 年からは世界各地で発生している紛争に対する調停と予防に新機軸を展開したく思っています。過去のモデル事例としては 1998 年のアフガニスタンのタリバン政府と北部同盟に提案して賛同を得たワクチン停戦、2003 年から 3 年間にわたり、一時停戦直後のスリランカ政府地区南部、LTTE（タミル・イーラム解放の虎）の本拠地、そしてタミルムスリムの居住する東部地区の 3 地域に医療チーム

パキスタンのアフガン難民キャンプでワクチン接種

を派遣、コソボ紛争では 1999 年の緊急医療支援に続き 2001 年から 2 年間アルバニア人とセルビア人の双方への医療支援、そして 2004 年末のスマトラ沖大地震津波での緊急医療支援後の復興支援の一つとして、スマトラ島南アチェ県での GAM(独立アチェ運動) 元兵士と村民のための保健衛生教育活動と AMDA Peace Community Center 建設などがあり、AMDA ではこれら 4 事業を医療和平プロジェクトと名付けています。

AMDA がこのような調停と予防に関与できる理由は 2 つあります。一つは「相互扶助」というコンセプトです。困った時はお互いさまの「相互扶助」のもとに争っている双方に支援をすることにより双方からの信頼構築が可能になるからです。二つは日本に本部がある団体であることです。日本は世界で最も嫌われていない国の一つです。なぜなら、第二次世界停戦後の 66 年間にわたり戦争の名のもとに人殺しをしていない。ODA25 兆円を拠出し利他の精神で発展途上国支援をしている。特定のイデオロギーを国益のために振り回していない。等々だからと思います。

「救える命があればどこへでも」のスローガンのもとに AMDA 多国籍医師団が活躍して国際相互扶助ネットワークを拡充してきました。このネットワークから得られた信頼関係を活用して、災害救援活動のみならず、世界各地の紛争の調停と予防にもっともっと貢献できればと願っています。世界の各国政府や多種多様な団体との関係を強化すると共に、国連経済社会理事会総合協議資格を活用した国連への政策提言も積極的に考えています。そのために AMDA 国連代表部を新設しました。本年も皆様方の温かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

フィリピン・ミンダナオ島洪水緊急支援活動
AMDA の緊急支援活動にみる多文化共生

2011 年 12 月 16 日から 17 日にかけてフィリピン南部のミンダナオ島で発生した台風 21 号による洪水で、1249 人（12 月末時点）の死者が報告され、ここ 25 年で最大の被害が出ています。AMDA では、12 月 21 日から 26 日まで、AMDA 本部とインドネシア支部からミンダナオ島へ医療チームを派遣し、被災地カガヤン・デ・オロで巡回診療などを実施しました。未だ避難生活を余儀なくされ、感染症などの報告もあるため、AMDA グループ代表・菅波茂医師を含む 2 名の派遣を 2012 年 1 月 12 日に実施し、AMDA フィリピンとともに復興支援に向けての現地調査など実施しています。

■日本からの派遣者プロフィール

菅波 茂（すがなみ しげる）：医師／AMDA グループ代表／岡山市在住

武田 未央（たけだ みお）：看護師・保健師／岡山県在住

大山 マジョリ（おおやま　マジョリ）：調整員兼通訳／倉敷フィリピーノサークル代表／岡山県在住

ヴィーラヴァーグ　ニッティヤーナンタン（VEERAVAGU Nithiananthan）：調整員／AMDA 本部職員 / 岡山県在住

■ AMDA の緊急支援活動にみる多文化共生

大山マジョリさんは日本人と結婚して岡山県井原市に住む 2 人の子供の母親。これまで倉敷フィリピーノサークルのメンバーとして積極的に活動してきた。今回、出身地ミンダナオ島での災害に、役に立ちたいと小学生の子どもたちをおいて調整員業務に携わってくれている。被災地をよく知る人材がチームにいてくれることはとても心強い。在日外国人が調整員として母国の災害への AMDA の緊急支援チームに参加するのは、2010 年フィリピン台風 16 号緊急支援、2011 年 1 月ブラジル洪水緊急支援に続き 3 例目。それぞれの方は、他に代えがたい活躍をしてくれていることを追記したい。

■倉敷フィリピーノサークルとは

2005 年 6 月 12 日に、岡山県内に住むフィリピン人が集まり発足。

2010 年台風 16 号フィリピン被害に対する緊急支援活動でも、同サークルのメンバーが AMDA の緊急医療チームの調整員として参加。東日本大震災での AMDA の活動にも募金などで協力。

【皆様からの募金を受け付けております】

郵便振替：口座番号 01250-2-40709
口座名「特定非営利活動法人アムダ」
通信欄に「フィリピン洪水」もしくは「36」とご記入下さい。

東日本大震災被災地支援に携わって

AMDA プロジェクトオフィサー　大政　朋子

私が初めて AMDA の調整員として救援活動に参加したのは、3 月 11 日の東日本大震災における緊急救援活動でした。震災当日、AMDA のメールマガジンで本部職員が被災地入りすることを知り、本部で手伝うことがないかを打診したところ、翌 12 日から被災地に向かって欲しいという返答がきました。すぐに派遣を決意したものの、当時、大学院生で被災地での活動経験もない私に何ができるのかという不安が重くのしかかってきました。結局、私の人生初の救援活動は、何もできないまま他の派遣者の方々に支えられた 5 日間で幕を閉じました。その後、東北でもう一度活動したいという思いから、4 月に AMDA 職員になり岩手県大槌町で約一ヶ月間緊急救援活動をし、5 月から現在までは復興支援活動として毎月東北入りをしています。現在実施されている復興支援活動は、公立志津川病院への医師・看護師派遣および 12 月 18 日に開所した大槌町における健康サポートセンターの管理・運営です。

一方、海外における活動として 10 月と 11 月にタイ洪水緊急救援活動に行ってきました。タイでは、東日本大震災の緊急救援活動時に大槌町に駆け付け、私たちと一緒に活動したタイの医師と再会し、共に巡回診療および支援物資配布を実施しました。東日本大震災で助けて頂き、タイ洪水では私たちが支援に赴くという今回のこの活動は、まさしく AMDA が提唱する「相互扶助」という理念に基づいているものであったと実感しています。

12 月に開所を迎えた AMDA 大槌・健康サポートセンター鍼灸室と地域のコミュニティーサロンを併設

震災から 11 か月経ち、変わりゆくニーズの中、被災地では衣食住に関わる基本的な問題などが未だ多く残っている地域もあります。仮設住宅での生活が始まった被災地は、交通の便の悪さ、寒さ、環境の変化などから、周囲の人との関わりを持つ機会が減り孤立していく危険を孕んでいます。見落とすことなくそれぞれの被災地のニーズに合った支援を把握し、被災地全体が元の生活に近づけるような支援を引き続き行っていきたいと考えています。

地元の看護師さんの雇用確保を 11 月から支援
冬季看護師派遣も実施中

タイ洪水被災者に対する緊急救援活動
被災者に生活支援物資を配る大政調整員

最後になりますが、2011 年は私が最も多くの人と出会い学んだ一年でした。何もできない自分に悔やんだ最初の活動から現在に至るまで一貫して私を支えてきたのは、意識が高く笑顔で活動している素晴らしき派遣者の方々です。また私たちは、陰ながら支えてくださっている多くの支援者の方々の援助によって活動を行うことが出来ています。この場をお借りして、AMDA を支えてくださるすべての人に心より感謝いたします

スリランカ復興支援スポーツ交流プロジェクトに参加して

看護学生ボランティア　**佐藤　康介**（川崎医療福祉大学　看護学科１年）

30年近く内戦の続いたスリランカで、2011年9月24、25日に北部の都市アヌラダプラにて、タミル人、シンハラ人、イスラムタミル人の３つの異なる民族、宗教に属する10歳から14歳の４校の学生生徒が参加する、スリランカでは初となるスポーツや芸術を通しての交流事業を実施しました。総勢159人の学生が参加する大規模なもので、AMDA本部とAMDAスリランカ支部が中心となって、スリランカの国語及び社会統合省（Ministry of National Languages and Social Integration）などの協力を得て開催が実現しました。社会人から看護学生となり、AMDAの活動にボランティアとして参加した佐藤康介さんの報告書から抜粋して紹介します。

スリランカスポーツ・芸術交流で中学生が描いた絵
３つの民族の平和のイメージが描かれている

＜AMDAでの活動履歴＞
2011年9月21日～27日 スリランカ
2011年9月4日～17日　宮城県南三陸町志津川

活動参加の経緯

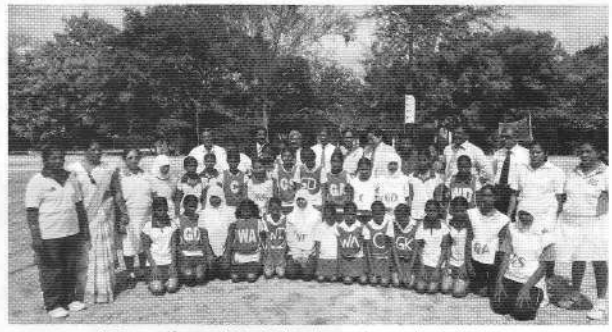
四年間しかない大学生活を無駄にすることなく、将来を現実的に計画するためにも、いろんな事を経験したいと考えていました。もともと国際協力、災害支援活動に関心がありましたが実際に何をしたらいいのか、わかりませんでした。

大学講義の一環で東北大震災の募金活動をして、AMDAへ募金を届けに行った時に、「おかやま国際塾」のことを知り、応募しました。しかし、選考には外れてしまいました。しばらく考えた結果、いろんな思いで仕事をやめて、わざわざ大学に入学したのに、ここで落ち込んでいる場合でないと思い、無理は承知で、モンゴルに行けなくても、事前講義の参加を希望したところ、被災地のボランティア活動とスリランカ復興支援活動という、すばらしい機会を与えてもらいました。活動をするにあたって、不安は多くありましたが、私でも力になれるのであれば、なんでもしようという気持ちでいました。

男子はサッカー交流

被災者の声

「今までこんなことは、なかった」と言う声を現地の人からよく聞きました。宗教寺院の見学の時には、学校の先生が「厳格なイスリム人がモスクに他の宗教団体が入ることを許すことは今までなかった。これは意味のあることです」というふうに驚いていました。シンハラ人の先生は、帰り間際に、「各民族が、宗教を超えて一緒になってスポーツをしたことはとても意味がある。このような事をこれからも続けていきたい」という事を私たちに言っていました。イスリムの先生方は、「AMDAに感謝している」と言ってAMDA職員とみんなの似顔絵が入った絵を即席で描いて持ってきてくれました。シンハラ人のサッカーコーチがボランティアで、言葉・文化の違うタミル人の子供たちのために身振り手振りでサッカーを教えていました。プロジェクト対して積極的な印象を受けました。



女子のスポーツ交流に参加した３グループの生徒たち

感想など

戦争が終わって、表向きは平和でも、人の考え方まで簡単に変わることもありません。だから、ときどき大人が、表で言っていることと、実際にやっていることが違うこともありました。部屋数が足りなかったり、垂れ幕の文字に誤字があったり、何もしてない子供が他の民族の大人に必要以上に怒鳴られたりと、トラブルは何度もありました。問題が重なると、思うようにいかない事の方が多いように、だんだんと思えてきました。しかし、プロジェクトが終わって、帰り間際に大人も子供も、それぞれの思いを彼らの方からぶつけて来たときに、プロジェクトの成功を感じることができました。このようなことを続けていくことが、現地の将来に繋がるのだと思いました。スリランカに行く前は東北の被災地にも行かせていただきました。全体を通して、思ったことは、人のために働く手段は、医療に限定されないということでした。医療もひとつのきっかけであり、人のためになる方法は、なんだってあります。相手個人のこと・宗教・文化・言葉・歴史を知ろうとすることが大切で、そういった事を無視して国内外の支援・理解もまず難しいと思います。

派遣期間中、楽しいことも辛いこともありました。問題が起きた時には、スタッフの方に激を入れてもらい、最後まで病気になることなく活動をやりきることができました。そして、帰国後は笑顔で皆様に迎えていただきました。期間は短くても、内容の濃い一ヶ月を送ることができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。私は、この経験を思い出にするのではなく、将来につなげていきます

■ AMDAの活動にご支援のお願い

ご寄付の際には郵便払込取扱票をご利用ください。
※郵便振替
口座番号　01250-2-40709
口座名　特定非営利活動法人アムダ
※楽天バンクからのご寄付も受け付けております。
詳しくはホームページをご覧ください。http://amda.or.jp

書き損じハガキを集めています

書き損じハガキがありましたら、AMDAまでお寄せください。切手と交換し、通信費として使わせて頂いています。また、未使用テレカ、未使用切手、ハガキも集めています。

※お問い合わせは
Tel:086-252-7700　Fax:086-252-7717

タイ洪水被害に対する緊急医療支援活動

避難所となっている体育館で診察を行う AMDA 医療チーム

AMDA は、深刻化するタイの洪水の被災状況と、東日本大震災でタイから医療チームを送ってもらったことに鑑み、10 月 14 日から 3 度にわたり医療支援チームを派遣しました。

11 月 19 日に日本を発った第 3 次医療チーム（看護師 2 人、調整員 2 人）は、購入したボートを活用して、ノンタブリー県、パトゥムタニ県、ナコンパトム県で巡回診療や物資の提供、手洗い指導などを実施しました。土嚢積みや大きい荷物の移動などの作業のため、筋肉痛や腰痛を訴える患者が多くみられ、次いで長い時間水に浸かっている被災者が多いことから皮膚疾患、避難所などでの生活で起こりやすい上気道感染症が多くみられました。また長引く避難生活による精神的なストレスを訴える患者も多く、不眠などの症例もみられました。第 3 次派遣チームはのべ 875 人の診療を行い、11 月 27 日に活動を終了し帰国しました。

子どもに手洗い指導をする AMDA 看護師

トルコ東部地震に対する復興支援活動

10 月 23 日に発生したトルコ東部地震から 1 か月が経過し、当初の予定どおり AMDA は、復興支援に向けてのニーズ調査を行うため、復興支援調査チームを派遣しました。11 月 27 日にトルコへ到着した AMDA 第 2 次派遣チームはトルコ東部ワン（VAN）市と郊外の町エルジシュ（Ercis）などを訪れました。11 月 10 日の余震による被害が大きく、市内中心部でも全壊や半壊した建物がみられ、ほとんどの店が閉店しており、住民も余震を恐れ、避難していたため、町中が閑散としていました。実際、AMDA 派遣者が滞在中にも余震がありました。AMDA の第 1 次派遣チームが医療活動を行っていた仮設病院は少し場所を移し、現在もテント内での診察を行っていました。トルコの医療チームは大変良く組織化されており、災害の各期に応じた被災者支援が行われており、トルコ全国から集まってくる医師や看護師、そのほか専門職によってそれらの活動が献身的に行われていました。持参した手指消毒のジェルを医療スタッフ用として 5 箱（180 本）寄贈しました。医師などの人材や医療物資も十分に足りている様子でした。

エルジジュの街を視察する AMDA 調整員

訪問したエルジシュの行政機関の災害本部長 兼 地元高校校長より、「日本はトルコにとって大変友好的で、また兄弟のような存在である。そして同じように地震による被災経験をもつ日本の人々がいつもトルコのことを想い、支援して下さることに大変感謝している。」と嬉しいお言葉を頂きました。今後は、スポーツ交流を含めた復興支援の内容を具体化していくとともに、現地トルコからの要請を受けてのプリスクール（幼稚園）と文化交流センターの設置など将来構想も含め検討しています。

インドブッダガヤにおける AMDA ピースクリニック事業

2009 年 11 月、インド、最貧州ビハール州ブッダガヤに AMDA ピースクリニックが開院してから 2 年が経過しました。ブッダガヤは、マハボディ大仏塔を中心とする仏教の聖地であり、世界遺産でもあることから、インドの建築法で大仏塔から半径 500 m は仏教施設以外の建築が認められていません。AMDA ピースクリニックは、岡山市にある日蓮宗太生山一心寺のご協力のもと、仏教施設附属医院として、インドの伝統医療アーユルヴェーダを中心に診療を行っています。現在は、アーユルヴェーダ専門の医師 1 名、セラピスト 2 名、助手 3 名でクリニックの運営にあたっています。おもに観光客や地元富裕層に伝統マッサージを提供し、その収益で月に 1 回は、貧困層、特に少数派である仏教徒が多く住む地域に出かけ、無料診療サービスを行っています。アーユルヴェーダ治療薬が必要な患者さんには一部薬代を負担してもらっています。本年 7 月以降の観光客を含む診療患者数は、100 名を超えました。11 月 15 日には、菅波代表も渡印し、一心寺の皆さんとともに開所 3 周年記念式典をおこないました。今後も AMDA ピースクリニックの PR 活動を通して、地元の人たちの AMDA に対する認知度を高めるとともに、地元アーユルヴェーダ薬草園と提携して貧困地域での無料診療を充実させ、更には地元医師会、地元大学等との協力を拡大して、子どもを中心としたコミュニティ医療の充実を図りたいと考えています。

AMDA ネパール ポカレル医師　岡山県立大学客員教授として来日

AMDA ネパール創立メンバーのひとりで、現在ネパールのトリブバン大学助教授であるラミシュワール・ポカレル氏が６年ぶりに来日し、岡山県立大学の客員教授として保健福祉学部で集中講義を行いました。高知大学、神戸大学でも講演し、各地で和やかな交流の場が持たれました。岡山県立大学では、「ネパールの保健医療の現状と課題」について主に日本語で講義を行い、３、４年生を中心に 100 人近くが熱心に受講しました。

1957 年　カトマンズ生まれのポカレル氏は、名門トリブバン大学医学部を卒業後、大阪大学日本語コースを経て、神戸大学医学部で 1992 年から 1997 年にかけて研究し、小児外科分野で修士号と博士号を取得しました。AMDA とは 1984 年神戸で開かれた AMSA（アジア医学生国際会議）の会合で出会い、AMDA ネパール支部の設立（1989 年）に尽力して初代支部長を９年間務めました。AMDA ネパールの最初のプロジェクトで郵政省ボランティア貯金配分金の初年度事業であるヴィシュヌ村地域保健プロジェクト（1992 ～ 95 年）を、同時期に日本に留学していたロヒト・ポカレル医師、リマル医師らとともに立ち上げたほか、94 年の AMDA ルワンダ難民緊急医療支援活動に参加。AMDA ダマック病院、シッダルタ母子病院 (AMDA ネパール子ども病院) の設立メンバーでもあります。

岡山県立大学保健福祉学部で講義するポカレル氏と、熱心に質問する学生

ヴィシュヌ村ヘルスポスト開所式　1993 年　→

AMDA 東日本大震災 国際奨学金の受給専門学校 学生からの作文

私の地元は、南三陸町で津波の被害を受けました。私の家も被害を受けて、家族は避難所にいました。そこでは、友達や近所の方々など沢山の人達がいました。避難所では体を動かすことは少なくなり、活動量が減少していました。特に高齢者の人達は、歩けなくなったり、立てなくなったりと状況は悪くなるばかりでした。そこに、全国から来ていただいた医者、看護師、理学療法士の方々に助けていただきました。私には祖父と祖母がいるので、とても感動しました。私は理学療法士を目指しているので、この時の恩返しが少しでもしていけたらいいなと思っています。奨学金を頂いたら、この目標を叶えるために使っていきたいと思います。

私は、３月 11 日の大震災により津波の被害を受け、実家が宮城県石巻市門脇の海沿いに住んでいた為、１０ｍ程の津波を直接受け、家、車、会社、倉庫と全て流されてしまいました。幸いにも家族は全員無事でした。私は、津波で変わり果てた石巻市を見て、学校に通う為に家族を置いて仙台に行く事を悩みました。学校どころではないと強く感じました。しかし、家族はもちろん、学校の先生方や同級生のクラスメイトから、色々助けてもらい、どうしても卒業したいという気持ちが強くなりました。今回ＡＭＤＡ様からの御支援を受ける事になり、心から感謝しています。私は、津波という恐ろしい体験をしましたが、たくさんの人に支えていただき、優しさを感じ、感謝を忘れずに生きていきたいです。

今回の震災で私の家は大きな被害を受けました。父は仙台空港で働いており、地震の際に起きた津波により、車が流されてしまいました。自宅の方も、多くの家具が壊れてしまいました。また、今回の震災で、多くの友人を亡くしました。遺体と対面した時の衝撃は一生忘れないと思います。変わり果てた友人の姿を見て、言葉を失いました。それ以来、自分自身も生きる気力を失くし、何事に対してもやる気が起きませんでしたが、理学療法士になりたいという気持ちだけは、消えませんでした。亡くなった友人も前々から応援していてくれていたので、絶対に諦めたくありません。今回の震災で、色々と出費が多くあり、これ以上親に迷惑は掛けたくないので、奨学金をいただいて、少しでも親の負担を軽くしたいと思っています。宜しくお願いします。

今回の東日本大震災における奨学金の支援を受けるにあたり、私はより一層、人の力になりたいという思いが強くなりました。

私の出身は、福島第一原子力発電所から 20 キロメートルに位置する、人口約三千人の小さな村です。農林業を中心とした過疎化が進む中、地震による爆発事故後、避難命令を強いられました。

将来は出身であるこの村に帰り、疾病予防や改善のため、運動教室を取り組む等、村民のために力になりたいと考えています。そして、少しでも早く、いつまでも長く孫から祖父母まで仲良く安全に暮らせる温かみのある村となるよう、希望を持ち歩んでいきたい。

奨学金を受けるにあたり支援してくださる方々に深く感謝しております。今回の東日本大震災で実家のある福島県は、原子炉の爆発という悲惨な事故に遭いました。実家は爆発した原子炉から 10km 圏内にあり今だに帰ることができません。父親も原発関連の会社に勤めていましたが、中に入ることが許されず仕事を失いました。今回の件で私は多くの人に支えられていることに気づきました。今後も理学療法士として医療や福祉の分野で人々の役に立てるよう日々の勉学に励んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2011 年 10 月～ 12 月の動き

<講演>		
10 月 1 日	人権教育講演会	倉敷市庄公民館
10 月 6 日	高校生のロングホームルーム	就実高等学校
10 月 10 日	日本政治学会 / 岡山県共同国際フォーラム―3.11 後の政治学と日本の政治	日本政治学会
10 月 12 日	ロータリークラブ例会における「卓話の時間」	大阪そねざきロータリークラブ
10 月 13 日	順正学園ボランティアセンター開設 10 周年記念特別講演	順正学園ボランティアセンター
10 月 14 日	ORIC セミナー	岡山リサーチパーク　インキュベーションセンター
10 月 15 日	第 37 回文化大講演会	矢掛町仏教会
10 月 17 日	国際島嶼医療セミナー /「島嶼医療・災害医療と岡山県のミッション」	国際島嶼医療セミナー実行委員会
10 月 21 日	人権教育講演会	倉敷市立玉島高等学校
10 月 23 日	シンポジウム：医療における多文化共生に向けて	一般財団法人　先端医療ヘルスケア推進財団
10 月 27 日	人権教育学習	学校法人就実学園　就実高等学校
10 月 29 日	岡山中央中学校ＰＴＡフェスティバル記念講演	岡山市立岡山中央中学校 PTA
11 月 2 日	文化教養講座	文京学院大学
11 月 3 日	神戸市看護大学同窓会　総会	神戸市看護大学　同窓会
11 月 9 日	おかやまコープ井笠エリア　コープ委員　中間交流会	おかやまコープ井笠エリア委員会
11 月 10 日	英進コース国際協力講演	東大谷高校
11 月 12 日	真事会勉強会	真事会
11 月 17 日	地域応援人づくり講座（防災部門）	岡山市大元公民館（岡山市安全安心ネットワーク推進室）
11 月 19 日	第 58 回日本臨床検査医学会学術集会　会長シンポジウム	第 58 回日本臨床検査医学会学術集会
11 月 19 日	兵庫医科大学大学祭医療シンポジウム	兵庫医科大学大学
11 月 25 日	定例会 / タイ洪水緊急救援活動報告	天理教国際たすけあいネット
11 月 29 日	平成 23 年度介護支援専門員 / 地域包括支援センター交流会	財団法人岡山市ふれあい公社　岡山市北区中央地域包括支援センター
11 月 29 日	平成 23 年度天台仏教青年中央研修会	天台宗務庁　社会部
11 月 30 日	岡山旭川ロータリークラブ　例会　卓話	岡山旭川ロータリークラブ
12 月 1 日	総合学習　テーマ「国際理解・国際貢献」	岡山市立石井小学校
12 月 3 日	AMDA 兵庫県支部定例会	AMDA 兵庫県支部
12 月 4 日	鏡野町人権問題講演会	鏡野町教育委員会生涯学習課
12 月 6 日	高齢者教室　第 6 回講座	岡山市立津高公民館
12 月 7 日	PTA 人権教育研修会	玉野市立後閑小学校 PTA
12 月 7 日	岡山県小学校教育研究会社会科部会新見支部授業研究会並びに授業改革推進員研究会	岡山県小学校教育研究会社会科部会新見支部並びに新見市立草間台小学校
12 月 10 日	ぽちぽちの会勉強会	ぽちぽちの会
12 月 17 日	「大空大地のカーニバル 2011」総括事業　東日本大震災被災地復興支援シンポジウム	大空と大地のカーニバル実行委員会(主催)及び笠岡市(共催)
12 月 21 日	水島公民館「高齢者学級・水島寿大学」	水島公民館
12 月 22 日	トルコ文化交流会	トルコ文化センター

<大学講義>	
10 月 6.13 日	相生市看護専門学校　看護第一学科　「災害看護」
11 月 16.24.30.12 月 7.14 日	福山平成大学　看護学部看護学科　「国際援助と保健資源」
12 月 1 日	岡山大学　教養教育　「生きる (その一) 愛すること」
12 月 10 日	岡山県立大学　保健福祉学部看護学科　ポカレル医師特別講義
12 月 2.9 日	岡山大学　薬学部国際保健学　「世界医療協力」

<インターン受け入れ>
8 月 18 日～ 11 月 25 日
ハムカ・ラニ　医師（AMDA インドネシア）
本部インターン

支援者紹介

紙芝居を贈呈いただきました

10 月 17 日　絵本作家の関藤英子様より紙芝居を贈呈頂きました。

「ニティのサッカーボール」という題名で、せきとうひで子作・画 AMDA 監修のオリジナルです。英語版も作成しました。

AMDA 事務局では紙芝居の出前や、講演の中での紹介、また紙芝居の貸し出しもしていますので、お気軽にお問い合わせください。　TEL 086-252-7700
E-mail：member@amda.or.jp

贈呈式での関藤氏（右）

紙芝居「ニティのサッカーボール」

連携協定の調印

12 月 16 日、真庭市の十字屋文庫館にて、十字屋グループと AMDA 特定非営利活動法人アムダの連携協力に関する協定書の調印式が行われました。十字屋グループの真庭環境衛生管理株式会社は災害時の地域住民のライフライン確保に向けて、真庭市、新見市、新庄村、吉備中央町など岡山県北部の自治体と災害協定を結びその専門性を生かした地域貢献活動をされています。今回の連携協定により、災害時緊急支援活動や災害被災地の衛生環境やロジスティクスに関する活動などでご協力いただけることは心強い限りです。

十字屋グループの牧生夫代表（右）と菅波理事長

『AMDA 被災地へ！—東日本大震災国際緊急医療 NGO の活動記録と提言』出版！

東日本大震災の緊急救援・復興支援に関わった人々や被災地の方々の声、今回に至る近年の AMDA の活動記録として、「AMDA 被災地へ！—東日本大震災国際緊急医療 NGO の活動記録と提言」（菅波茂編著）を 12 月 1 日 に小学館スクウェアから出版しました。

AMDA が掲げる信念のもとに集った国内外の人々が被災地へ！ボランティア、ご支援者、被災地の方々、計 77 人からの寄稿、170 枚を超える写真ともに、緊急援助の現場から発信する未来への提言となっています。全国の書店、岡山県内書店（ジュンク堂、紀伊国屋書店、丸善、他）、インターネット（Amazon 等）で発売中。お問い合わせはお近くの書店まで。AMDA でも受付中。価格 1,500 円（税込）。

支援者からのメッセージ

◆又来　静香 さん

私はカナダのバンクーバーに住んでいます。今通っている語学学校に、トルコ人のクラスメートがいて、「日本人がトルコに助けに来てくれた、ありがとう」と言われました。私は何もしていないのに、日本人を代表してお礼を言われたようでした。素晴らしい救援活動をして下さり、ありがとうございます。同じ日本人として、とても嬉しかったです。
少ない額で申し訳ないのですが、寄付させて頂きました。これからも頑張って下さい。

◆ Taro IKENISHI さん

震災当時も今も上海に駐在をしております。母国が被災し、日本のみならず、世界中にいる日本人誰もが気落ちしていた最中、諸外国からの支援には心から勇気づけられ、励まされ、力を頂きました。あの時頂いた「がんばろう」に、今度は「ありがとう」を添えてトルコに届けることが出来たなら。ただ、そう思った次第です。僅かではありますが、活動資金として御役立て下さい。領収書は不要です。貴社の健全運営を信じております。（笑）

◆妹尾産業（有）/ 妹尾産業従業員一同

東日本大震災被災地で、いろいろな課題が出てきている中、「心をひとつに」という言葉が、すべての日本人へのエールとなり、そしてそれぞれが人とのつながりを見つめ直しているように思われます。AMDA のスタッフの方々には、私たちの、何かしたい・何かしなければという思いを、いつも受け止めて頂き、被災した方々へ届けていただいて感謝しています。AMDA のみなさんの各地での活動は、本当に被災された方々の励ましになっていることと思います。活動されている皆様におかれましては、体調には充分に気をつけて頂きたいと願っています。本当にいつも、ありがとうございます。

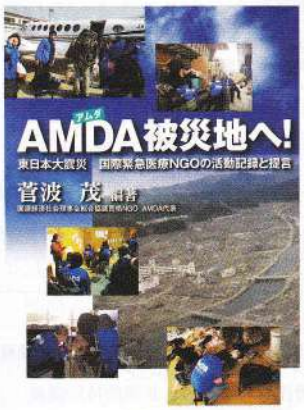
AMDA 兵庫県支部からの活動報告

兵庫県薬剤師会主催
第 4 回市民講座・薬と健康フェア

10 月 27 日西宮市プレラホールで開催された市民講座で AMDA 兵庫県支部の鈴記好博医師が「災害と医療」というテーマで基調講演を行ないました。震災発生翌日に東北に向かったお話から始まり、合計 4 回東北へ足を運んで活動された経験を通して考えたことをわかりやすくお話しされました。薬剤師さんなど多数の方が来られ、その関心の高さがうかがえた講演会でした。また、パネルディスカッションでは AMDA 兵庫県支部の桂木聡子薬剤師やゲスト講演のダニエル・カールさんも加わり、会場からの質問も活発に意見交換がなされました。

パネルディスカッションでの鈴記医師（左端）と桂木薬剤師（右端）

◆◆今回の書籍でご紹介しきれない多くのご支援者がいらっしゃいます。陰に日向に AMDA を通して被災地の人々を支援しようと汗を流された多くの皆様に、この場をお借りして、改めて敬意と共に御礼を申し上げます◆◆



小学館スクウェア

笠岡市内の小中高校、図書館、議会図書室他笠岡市内関係先に 75 冊配布

12 月 17 日に笠岡市にて開催された「市民共創・協働まちづくりシンポジウム」で AMDA 理事長菅波が基調講演を行ったことがご縁となり、笠岡市内の各学校などに「AMDA 被災地へ！」が配布されることになりました。26 日に催事主催者の「大空と大地のカーニバル実行委員会」の網本様（写真左）、片岡様（写真中央）が受け取りに来られました。